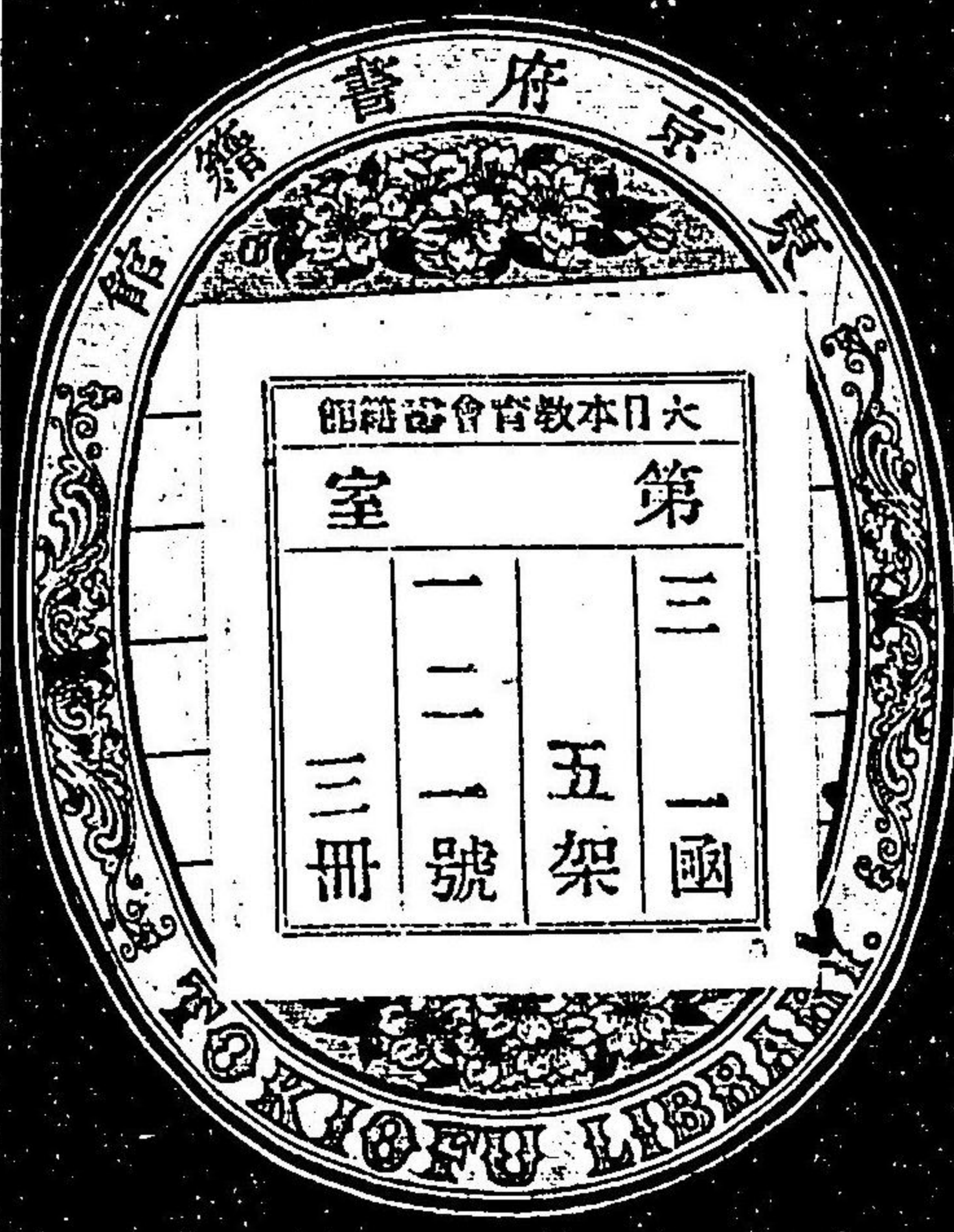


圖書
荻田長三著
內國大概
三



特31
415

共
三
本

華山天皇

五代

師具冷泉天

皇の長子母ハ贈

皇太后藤原氏諱

ハ懐子太政大臣

伊弉女位ニ在

十三年元と改む

一寛和と曰ふ

位を遜る後二十

西羽後ノ鄰ニ高山満

塔ノ西ノ味ノ多ノ般

就馬山最崇ク姫岳ヲ名

早池南昌七時向ノ駒

嶽ホモ亦天半ニ抽ヅ北



上河の源此國よ起る江
 刺及一の関貿易互市
 生息の區たり。秋重埜
 谷高船輻輳の港口
 と此内の郡數十曰く。

二年よりて崩す
 壽四十一遺詔
 て薄葬せしむ山
 城葛野郡紙屋川
 上法音寺北陵
 葬る

六十六代
 一條天皇

諱ハ懐仁圓融天
 皇の長子母ハ東

總津江刺磐井開保
 科紫雲波岩手九戸鹿
 角和歌山岩手縣盛岡在
 里。六郡を統べ水澤船懸
 井初あり。五郡を管す。

三條院藤原氏諱

ハ詮子太政大臣

兼家の女位ニ在

二十五年元を

改むる六日永

延永祚正曆長徳

長保寛弘位を皇

太子小禪る崩ず

壽三十二遺詔

一薄葬せむ北

陸奥國東山道極北

西羽後南陸中

東山海を隔て目高物

對山岳綿互岩城山

寂峻秀母津輕富士

山長坂野火葬

す後御骨を山城

葛野郡圓融寺北

陵ニ藏む

天皇慈仁寒夜嘗

て御衣を脱して

曰く窮民衣無き

者あらん朕獨嚴

る忍びんやと

學を好み文を崇

と極北

西羽後南陸中

東山海を隔て目高物

對山岳綿互岩城山

寂峻秀母津輕富士

と極北

山長坂野火葬

す後御骨を山城

葛野郡圓融寺北

陵ニ藏む

天皇慈仁寒夜嘗

て御衣を脱して

曰く窮民衣無き

者あらん朕獨嚴

る忍びんやと

内國抄

七十一



陸奥
巖木山

去るに青森縣津輕郡
に在り州内分て四郡
とあり曰く津輕小部
二戸三戸ありハ戸
弘前能澤各州内の

び詞藻人よ過ぐ
兼て絲竹は妙なる
り一時人材輩出
以自謂よ人を得
る延喜天曆は勝
ると然れども道
長の專權を制す
る能えバ
六十七代
三條天皇

通邑者估雜尚の安と
以公般城より陸奥よ
五國総計五十四郡人
大約百六十萬二千石高
百九十二万七千と云

諱ハ居貞冷泉天皇の第二子母ハ贈皇太皇藤原氏諱ハ超子太政大臣兼家の女位ニ在す五年元を改むる一長和と曰ふ位を皇太子ニ禪る明年崩す壽四十二遺詔して

羽前國南岩代ハ羽後東を陸あり抵り西越後ニ接し北海ニ瀕り地勢高嶮山嶽居多郡を列す四村上豆餉最上田

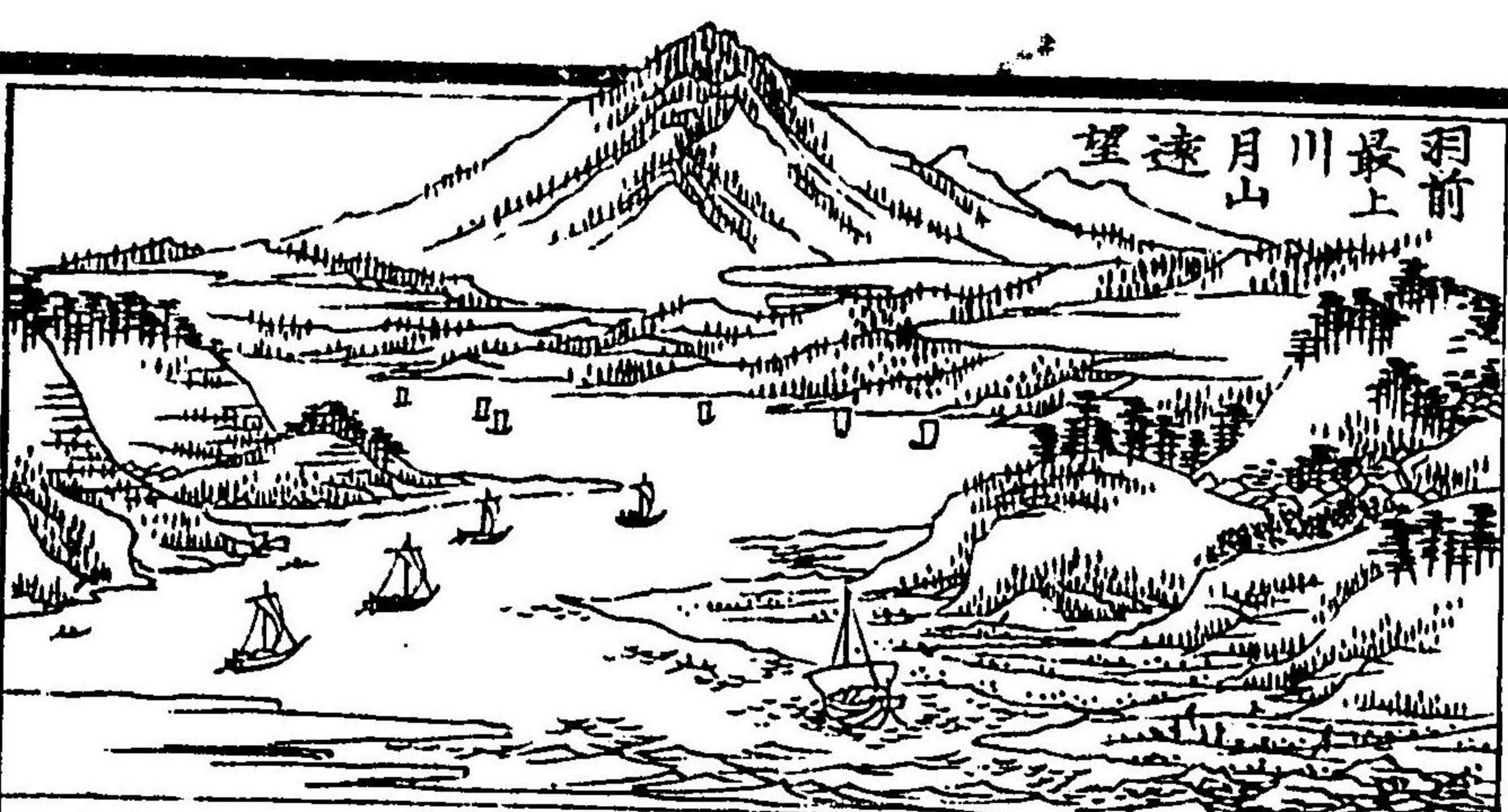
薄葬セし舟岡西邊ニ火葬し御骨を山城葛野郡北山陵ニ藏む

六十八代

後一條天皇

諱ハ敦成一條天皇の第二子母ハ上東門院藤原氏諱ハ彰子太政大

川ボ之山形縣郡々あり三郡を管し置賜縣豆餉郡米澤に在り其郡ハ轄り酒田縣田川に在り郡及羽後



飽海郡を治官す月山
 羽黒河舟西方より上る
 花と山伏東南にあり
 秀が酒田川は中と遠
 り小海より道沿す上の山

臣道長の女在位
 二十一年元を改
 むる四寛仁治安
 萬壽長元と曰ふ
 崩ず壽二十九遣
 詔して薄葬せし
 む神樂岡東に火
 葬し聖容を山城
 愛宕郡菩提樹院
 に安き御骨を淨

新莊之内大泉陣る
 國の都令たり。
 羽後國北陸奥より抵
 り南に羽前東に陸中。西
 北海より枕む地土高崇

土寺ニ藏む後善
提樹院陵ニ移す

六十九代

後朱雀天皇

諱ハ敦良後一條

天皇の同母弟在

位九年改元する

三曰く長曆長久

寛徳位を皇太子

禪る崩す壽三

園境山深く嶽多し秋

田躬秋田郡ニ在る本玉

七郡及陸中乃内鹿角

寺初と掌轄する全國の

郡牧八飽海平燕雄孫

十七香隆寺乾野
火葬し御骨を
山城葛野郡圓教
寺陵ニ藏む

七十代

後冷泉天皇

諱ハ親仁後朱雀

天皇の長子母ハ

贈皇太后藤原氏

諱ハ嬉子太政大

仙小由利川辺秋田山本
飽海一乃沼田躬の所轄
たり太平素在名駒岳象

形鳥海雄氣ホ山嶽

我々勢かし天を刺せん

羽後
高海山



及戸崎野代の二水波
ナミキタウミ 浪小海よ有る岩崎
ナガルー 久保田聖代名玉内乃
クニウチ 名はたると
ヨイトロ 羽國前及郡數十二
コホリカズ

臣道長の女位
 在す二十三年改
 元す四日く永
 承天喜康平治曆
 崩ず壽四十四
 岡西北野火葬
 御骨を山城葛
 野郡圓教寺陵に
 藏む

七十一代

人夏八十七万七千餘口
ヒトカズ
 石高を言十二萬六千
イシタカ
 とす
 北陸道七國一平郡を
 統よ

後三條天皇

諱ハ尊仁後朱雀

天皇の第二子母

ハ陽明門院諱ハ

禎子三條天皇の

女在位五年改元

ナリ一延久とい

ハ位を皇太子と

禪明年崩ず壽

四十神樂岡南

若狭必東近江及越

前ノ界一西南丹波

丹波小接一北ノ海ノ面

東南南崗密駢列地

勢岨咀海濱石多州

内分て三郡と以て遠

近といひ大飯といひ三

方といひ臨る敦賀外

屬す其石多有ハ方八千

三百余人民七為ハ七

火葬一御骨を山

城葛野郡圓宗寺

陵に藏む

天皇剛健嚴明痛

く頼通の權を抑

へ其政柄を奪ふ

頼通蹤を斂めて

宇治に退居す教

通ハ員を備へ

のみ皇綱再び張

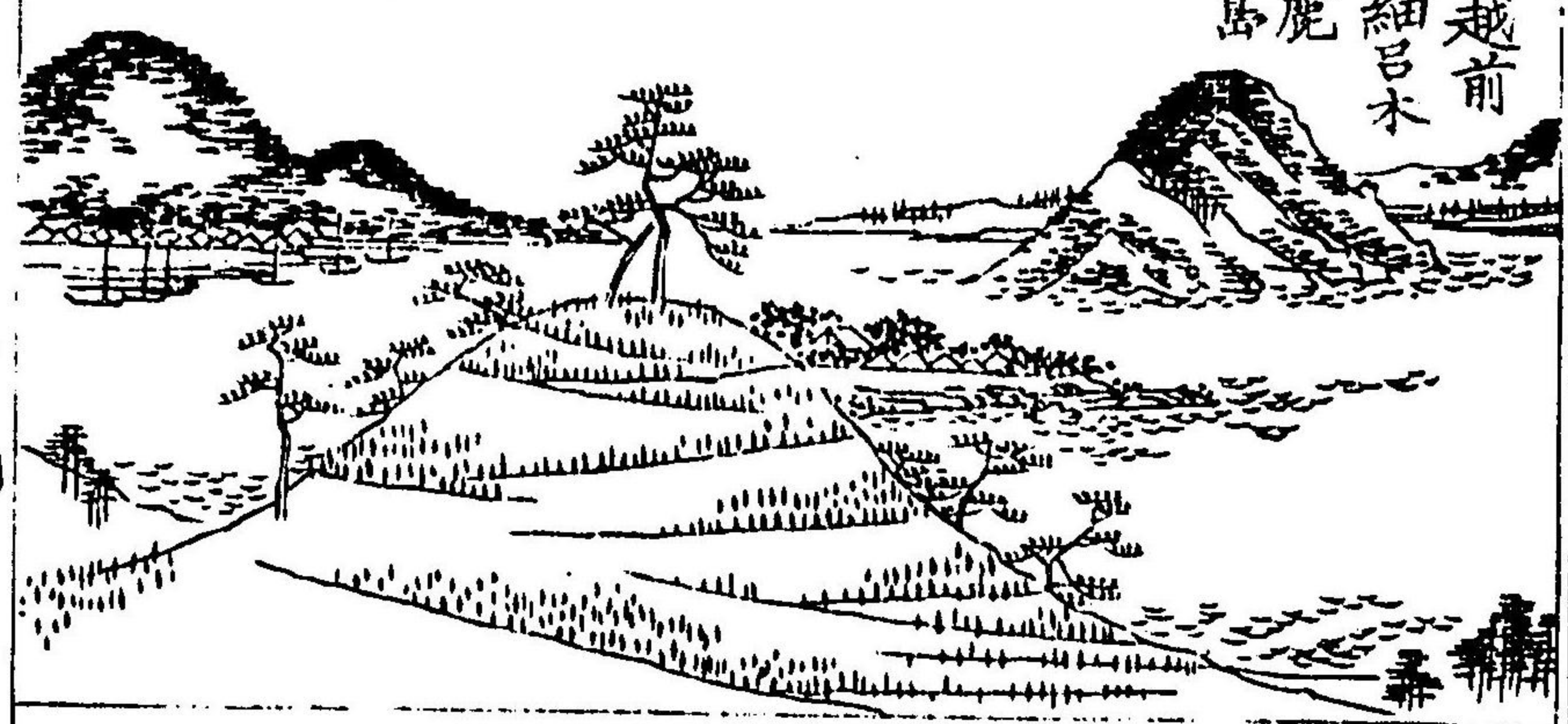
内國九根

若狹
松尾山
鴻の浦



百口青葉青井多田
お乃名山あ栗井の川北
海へ入る小濱渚
海はおつ集州民麩玉
乃変と以

越前
細呂木
島鹿



越前國東美濃飛驒
お近江お加賀お越前
海は遠む土地高嶮峻
秀の山多々大日列山愛
宕る峰岫たり白鬼女川

七十七

り郡下肅然隆を
承和延喜と比す
天皇儉を尚び學
を好み自ら禁秘
記鈔を著す

七十二代

白河天皇

諱ハ貞仁後三條
天皇の長子母ハ
贈皇太后藤原氏

送海入る福井丸

岡崎江大野各地若高

詠集の受三國海峽乃

名區たり今も分て郡

と曰く敦賀丹生今も

足羽 縣廢 止敦 賀縣 工合 併若 挾越 前一 圓ヲ 管ス

諱ハ茂子中納言
公成の女在位十
五年元を改むる
四承保といひ承
暦といひ永保と
いひ應徳と曰ふ
位を皇太子と禪
す後四十三年
崩す壽七十
七衣笠山東麓

足羽大野坂井南條六田

敦賀郡敦賀と佐り本

五三郡若狹一國と兼

管以足羽郡足羽郡

里三郡と佐り全國の高

火葬一御骨を香
隆寺に安く天承
元年七月山城紀
伊郡鳥羽塔中
藏か
天皇性嚴一て
温雅信賞必罰政
宸衷より出て相
門手を歛む官職
と授る舊典に遵



加賀
白山

波東南山圍岳繞り
白山剱嶽鞍々嶽峯
空を刺して蒼生安宅
手取競形淺水お西
し海より國內分

平の萬のふにる石任民

二千五万四千余とよ

加賀國東城中之隣

南に飛騨越前北に能

北に富山西北海に瀨

さび位を譲るの
後政を聴き院宣
を以て天下を號
令する事四十餘
年嘗て曰く天下
意の如くあらざ
るもの惟鴨河の
水雙陸の采山法
師のみと射を善
く一詩歌を好み

て京都と曰く江沼
結美加賀石川之河
庭石の都ある本
及結城を掌轄
金澤士民混居中
サマラヤアキネヤ
マゼリテアル
クニヤチ

篤く佛を信ぎ嘗
て雨を怒り器
盛て獄を下し時
人之を雨禁獄と
云ふ四大び高野
は幸し八大び熊
野は幸し畫佛々
像塔を造り千萬
を以て教し殺生
を禁し漁網を焼

乃大都會大聖寺あり
比邊通境人欠十九万
卒石首為四十二万八千
三万餘
能登國加賀越中

其貢魚を停め釋
莫も亦素饌を用
上國司の遷替舊
典も乖き常任の
者三十餘國華麗
も尚び賤女子も
亦錦繡を衣る是
を以て國用耗竭
大
七十三代

存半嶋下
三面皆海岬湾も之ふ
少郡を向つ四甲も
昨暮鳴風至珠洲総
て石川縣も層し重言



越中
立山

廿二萬石人民凡七
七子又百七尾輪嶋人
烟簇起の地なり。
越中國加賀越後乃
間位南飛彈ふ

堀河天皇

諱ハ善仁白河天

皇の第二子母ハ

皇太后源氏諱ハ

賢子右大臣顯房

の女在位二十一

年元を改むる七

たび寛治嘉保永

長承徳康和長治

嘉承と曰ふ壽二

号し北海湾を臨む

ては燈臺を對しと地勢

実元氣能治寒通は

多す空野を以て礪波

射水婦員新川を餘

新川初魚津を存り

内津河多し中田神

通の二流はれが尤だ

お供よ小海よ落つ栗

唐礪波朝日佛岳津

十九香隆寺坤原

に火葬し御骨を

山城葛野郡仁和

寺圓融院に藏む

後圓教寺に遷す

天皇位に在す時

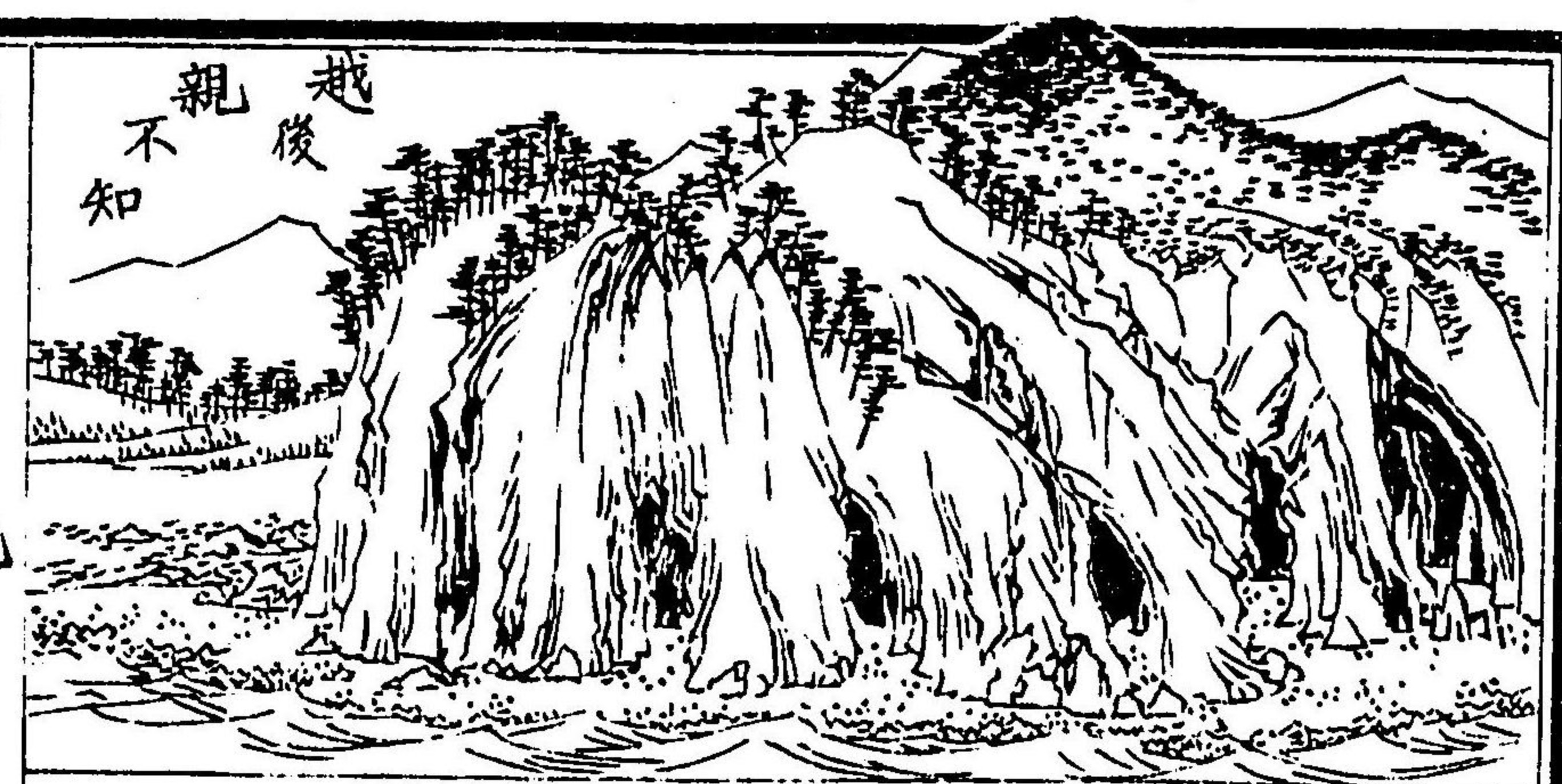
天下の事皆上皇

に決す天皇猶心

を政事に留め諸

司の奏案夜必ナ

覆視志疑一き事
あれバ再び商議
セ一む、天皇學を
好み、和歌を能く
是時源俊房藤原
通俊大江匡房藤
原季仲等朝ニ在
り、天皇曰く、人を
得る古く媿ずと、
七十四代



越後國西越中一東ハ
岩代羽前ニ接シ一東ハ
土佐信濃ノ界ニ北ニ
海ニ臨ミ佐渡ノ面ニ
天時寒冽冰雪密合

土佐等東南ニ列シ互
山劔山取峻秀名都
與中島一富山神
通川の岸ニ存リ人産
積密の交ニシ

鳥羽天皇

諱ハ宗仁堀河天皇

皇の長子母ハ贈

皇太后藤原氏諱

ハ次子贈太政大

臣實季の女在位

十七年元を改む

る五たび曰く天

仁天永永久元永

保安位を皇太子

行踏車をも用ふ通國

分つて七郡とあす曰く

頸城古志三河魚沼蒲

原岩船羽新瀉糸

蒲原も在り一郡を

柏崎縣廢止新瀉縣
七郡ヲ管ス蒲原郡
ノ内郡若松縣屬ス

禪後三十三

年一々崩す壽

五十四是夜山城

紀伊郡安樂壽院

塔ヲ葬り以て山

陵ヲ擬す天皇位

を譲る後政を院

中ヲ決するホト

九二十八年前後

三女院あり美福

柏崎縣約相も存

五郡を統ぶ総計半

七方二五九名新瀉交

易六所之北地第一乃

易六所之北地第一乃

門院最も寵せら
 保元の亂實
 此に兆す天皇天
 文に通ト音律
 精く笛を善くす
 平生佛に供僧
 施す其費計
 可らず好んで容
 儀を修む朝服
 稜あり烏帽額

好閑港たり高田長
 岡新敷田水系峰山
 村上村松等必内通
 者の部有者名の區と
 妙光山焼山共噴火
ケブーラハク



佐波
 雪の
 高濱

黒姫旭山米山亀割
 戸倉白馬駒岳悲々天
 素よ秀づ信濃川必
 中央よ海よ
 落つ此地溪水流る

相縣太ニリ國圓管
川雜郡在一本ヲス

内國大槪

ある此時は始る

七十五代

崇徳天皇

諱ハ顯仁鳥羽天

皇の長子母ハ待

賢門院藤原氏諱

ハ璋子大納言公

實の女在位十九

年元を改むる六

曰く天治大治天

佐渡王北海中此一孤

島全疆分て三郡とる

以加茂といひ難左とい

む羽茂といひ通計

十三万四千二百九十

承長承保延永治

位を皇太弟と禪

る、後二十三年と

して讚岐と崩せ

壽四十六阿野郡

白峯と火葬す上

皇崩ずる後逆亂

相繼ぐ世以て怨

魂の祟と為る元

暦元年四月上皇

二子四百余國中峰岳

連列檀特上杉の二山

尤高き山二瀬川南原

海より小木夷共す

大船出入の海口相川

内國大槪

八十九

廟と春日川原と
造り粟田宮と稱

、毎歳奉祀す、後

明治元年九月神

靈と京師今出川

飛鳥井町と遷し

祀る白峰宮と稱

大

七十六代

近衛天皇

廣山金浪と出ひ天

第一をり。

山陰道八國総計五

十三郡。

丹波國播磨乃東よ

諱ハ體仁鳥羽天

皇の第六子母ハ

美福門院藤原氏

諱ハ得子贈左大

臣長實の女位マ

在す十五年元と

改むる五たび日

く康治天養久安

仁平久壽崩す壽

十七船岡山西野

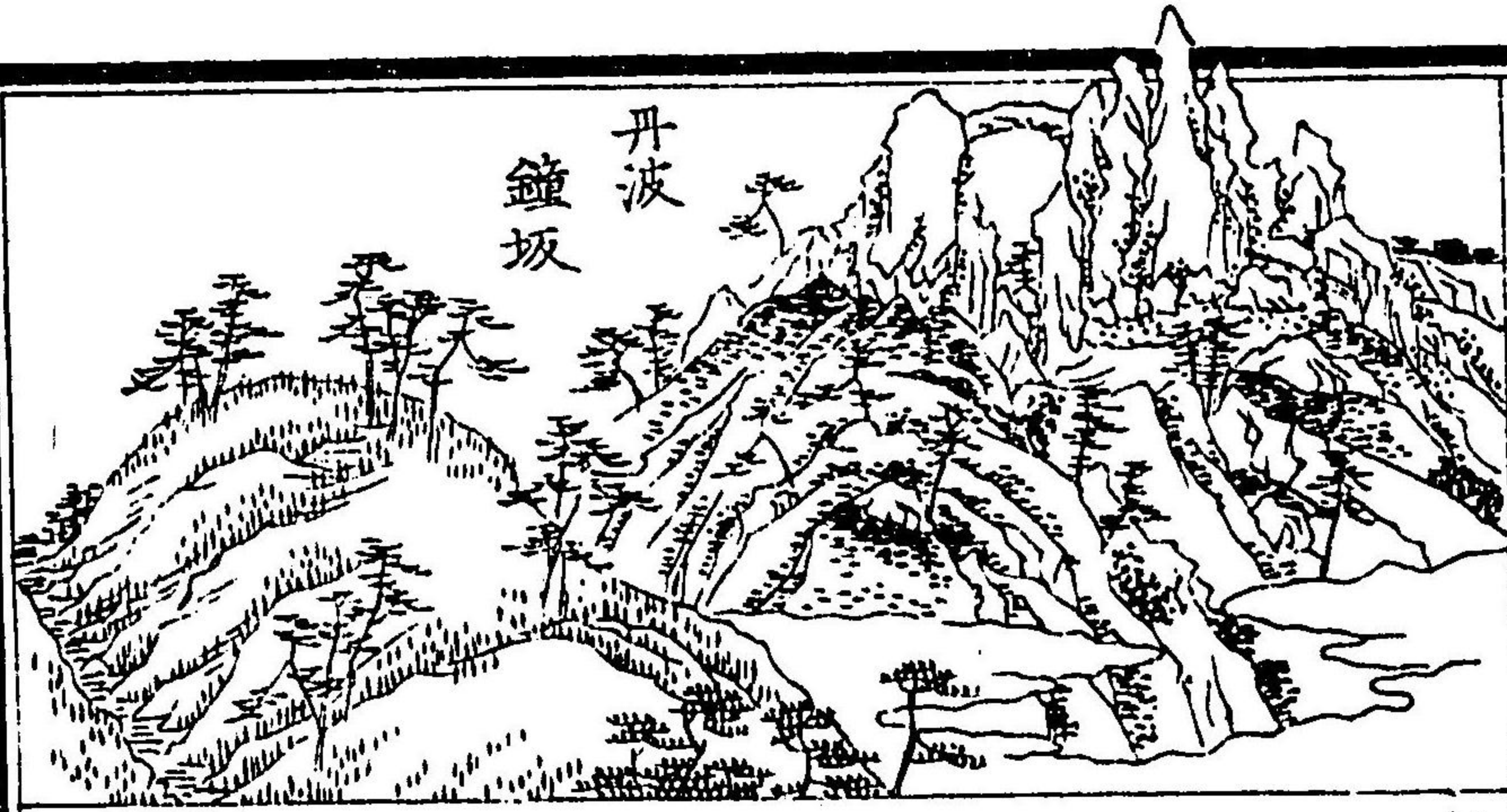
在るよみ及若狭南

播磨東山味近原

播磨西面山岳屏園

中央平廣桑田

水井多紀氷上天田



何々鹿通計六郡三郡
 豊岡野々廣一三郡
 西京府々廣以全州
 十四萬二千五百石人欠
 廿八万二千五百福智山

火葬一權は御
 骨を知足院常行
 堂に藏む長寛元
 年御骨を山城紀
 伊郡鳥羽東殿美
 福門院塔に徙す
 天皇位に在る日
 政悉く法皇より
 出づ居常は鬱々
 久うして疾を成

後山龜石各工民報
 字の少お多きなり物
 内溪水連下流を答
 大川とあり丹波
 今、沖嶽鬼峰ホの石

ナ

七十七代

後白河天皇

諱ハ雅仁鳥羽天

皇の第四子崇徳

天皇の同母弟位

ニ在ナ四年元を

改む一たび曰

く保元位を皇太

子ニ禪る後三十

山西北より高し。

丹後至若狭但馬乃

下より存り南丹波界

北より海は枕より汀湾

殊多八千八川源を丹

四年より崩ず

壽六十七蓮華王

院法華堂ニ葬る

法皇院ニ在る三

十餘年五天皇を

擁立す皆幼冲故

ニ政を専らふす

七十八代

二條天皇

諱ハ守仁後白河

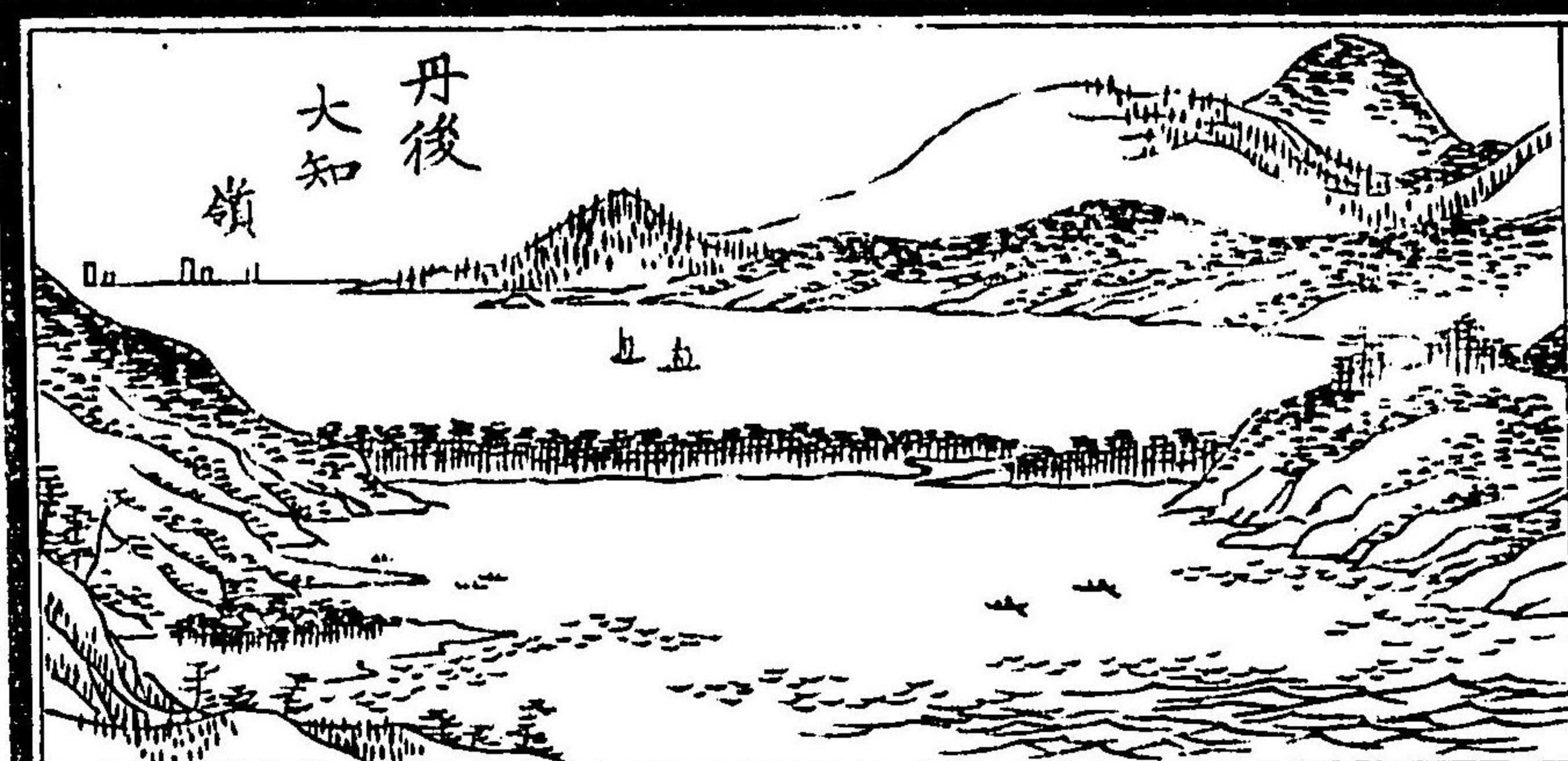
波より費し由良港より

為つ佐登海原小流

し海より入ふ大江武

部成相山本程々半

天下は海平の中央の海



湾南より出る此岬を天の
 橋と云ふ。皇國三
 勝景乃一なり。皇國三
 て玉都と云はれ曰く加佐
 與佐中村整然地理

天皇の長子母ハ
 贈皇太后藤原氏
 諱ハ懿子大納言
 經實の女位ニ在
 ず八年元を改む
 る五たび曰く平
 治永曆應保長寛
 永萬位を皇太子
 禪り崩す壽二
 十三香隆寺ニ火

て豊岡野ノ層ノ石夏
 十の方々ハ百ノ口十四
 萬七ノ口有。宮津舞
 鶴海峯の繁華たるを
 但馬國因幡丹波乃

嘉應二年五月御骨を三珠堂

に藏む

七十九代

六條天皇

諱ハ順仁二條天皇の第二子母ハ

伊岐氏大藏少輔

兼盛の女在位四年元を改むる一

たび仁安と曰ふ位を皇太子と禪

了後八年一て崩す壽十三清閑

寺に葬る

○清盛雜髪一て

浄海と号す世に

太政入道と云ふ

八十代

高倉天皇

高倉天皇

高倉天皇

高倉天皇

高倉天皇

高倉天皇

高倉天皇

間よあり南ハ播磨水

海に流る其の西三面

を流る小湾多河

流る少しと名氏全

國分て八郡と名氏曰く

朝来善文出石氣多

城崎英吾三方七次

名新城崎郡あり本州

及丹波一國丹波二郡

学管臣以本州の石高十



但馬
瀬戸の
瀑布

三萬七千人。十六万七

千三百餘。出石村岡内

乃小形。湯島温泉

あまのそと。天下ま。旅

客難踏の地あり。

ビト
ダイリカホキ

因幡國石高十七萬七

百。人口十二万八千六百

六。郡と曰く。法美

八上智。以邑。高州

多。東岩井。鳥取。新治

ケニオヤクシヨ

諱ハ憲仁後白河
天皇の第四子母
ハ建春門院諱ハ
滋子兵部大輔時
信の女清盛の妻
時子の妹在位十
三年元を改むる
四たび曰く嘉應
承安元治承位
を皇太子と禪る

明年崩す壽二十
一、東山清閑寺

火葬す、

天皇嘗て紅樹を

愛す、一日仕丁枝

を斫て薪と為し

酒を煖む、藤原信

成罪を請ふ、天皇

曰く、林間煖酒焼

紅葉誰ら仕丁に

邑美郡に在り、本及

伯耆、隱岐、三岐を統轄

す。因幡山、新羅山、東

西、對峙、溪流、千石を

迂回し、加留川、蒼り

此風流を教ると、
其罪を問はず、

八十一代

安徳天皇

諱ハ言仁高倉天

皇の第一子母ハ

建禮門院平氏諱

ハ徳子太政大臣

清盛の女在位四

年元を改む二た

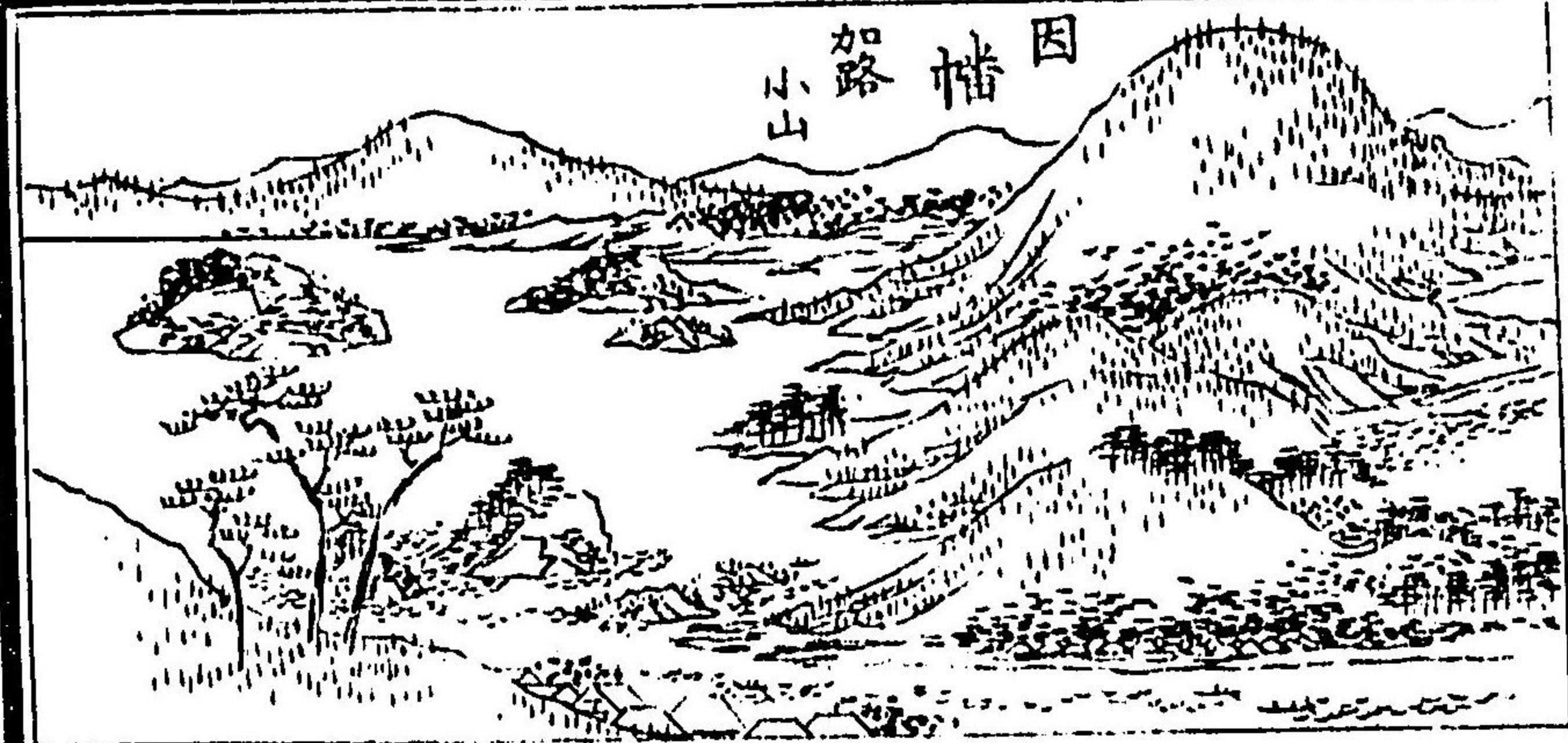
海へ入る鹿野加るたの

高貴輻輳乃地土の境

界西ハ伯耆、東、但馬、南

を播磨、美作、北、小海

小湫、



伯耆國東北海邊に
 南無作備中西出雲
 備後より多し大山々
 第一の高宗堆雪夏
 滑山脈西東の分列



福山往見尾山等大山
 のやまはひ溪流殊多
 根川西橋津川
 東より里水海へ入
 米子名和湾の東岸よ

び養和といひ、壽
永といふ、四年三
月義經大壇の
浦に戦ふ、田口成
良義經は降る、二
位禪尼天皇を抱
き、劔鬪を挟んで西
海に投ず、天皇壽
八歳、建禮門院も
亦海に投ず、渡邊

昵之と援けて義
經の船を送る、神
璽も亦出づ

八十二代

後鳥羽天皇

諱は尊成高倉天
皇の第四子母は
七條院諱は殖子
在位十六年改元
す、三たび曰く

河有り、農と雑交り、邑

たり、園國十九萬、四、四

百、本人口十六万九千六

百、郡を分つ六曰く、河村

久米、八橋、汗入、會見、日

野、渾る、島取、野、島

出雲國南、石見、備後

東、伯耆、西北海を隔

て、隠岐、對、楯、繼、石

東、大、岬、を、海、湾

元暦文治建久位
と皇太子の禪
爾後政と院中
聴くこと二十餘
年本院と稱す常
一王室の陵替と
憤り恢復の志あ
り承久元年北條
義時を討つ義時
死して上皇を

湖小の連る沼中
魚と産以るお支那
の和江の狩りとい島
根縣多田松郡松江
あると所管のく久丹

出雲廣瀬



七萬九千二百石高二十
方二五五石郡敷十
曰く意字の義島根
秋鹿楯縫出雲神門
飯石仁多太尔等也

隱岐遷す上皇

隱岐に在るはと

十九年延應元年

二月隱岐崩ず

壽六十、約田山中

火葬す、藤原能

茂御骨を収て京

師に還り大原西

林院に藏む寶治

元年北條時頼上

三保関岬頭の港

海の高船碇泊の要

少民杵築天日隅宮の

所在旅客群集乃地

日御崎佐田浦廣瀬

母里今市少部爲

とくやも玉内乃隼

返枕木鶴山強孝八

重垣醍醐総て名山

た梨。

皇の祠を鶴岡西
北山に建て今宮
と云ふ

八十三代

土御門天皇

諱ハ為仁後鳥羽

天皇の第一子母

ハ承明門院源氏

内大臣通親の養

女位に在す十三

年元を改むる五
 たび曰く正治建
 仁元久建永承元
 位と皇太弟は禪
 り閑居歌を詠
 自ら遣ふ是より
 後鳥羽上皇と本
 院と稱し天皇を
 上皇と云ふ後鳥
 羽天皇の北條氏

石見國二面皆山嶺中央
 平坦西長門南周
 防安藝東備後出
 雲もあす人口廿四萬五
 千三百総商十萬方一五



石見
 高津山
 汐濱

百之郡數六曰く安濃
 近厚那賀是知廣
 足美濃濱田糸形賀
 郡は在る江の川源を傳
 及不方一少海は流つ

内國大標

九十九

と討つや上皇屢
之を諫む北條義
時上皇と土佐よ
遷す後阿波よ遷
す寛喜三年十月
難髪す法名行源
遂に阿波よ崩す
壽三十七火葬す
て御骨を京師よ
送り西山金原法

高角川其他の群
も心水海に三輪山
内の大岳山脈
列して津和野江津大
春益田長濱各州内

華堂と藏む

八十四代

順徳天皇

諱ハ守成後鳥羽
天皇の第三子母
ハ修明門院藤原
氏諱ハ重子贈左
大臣範季の女位
一在元十一年元
を改むる三たび

乃通色少なるま

隱岐國出雲止不海

中より四島今一

國と云一玉向四面

郡と云一通計志方二

曰く建曆建保承
 久位を皇太子に
 譲り、天皇英敏典
 籍を好み和歌を
 能くを親ら八雲
 鈔禁秘鈔を撰す、
 北條氏京師を陥
 るし、及んで佐
 渡を遷る仁治三
 年九月佐渡を崩

石人欠二
 千七百余知夫海部
 周吉陸地都て多反
 野よ原氏玉内湾浦
 経勢地峡も亦勢
 タクサニアル
 シトクノマヘンゴキニル

社父枝岐隱



比洲嶼四面よ
 中周吉目費舟楫
 伎利乃港反海部
 後鳥羽天皇乃古陵
 行宮乃古趾乃
 猶

皇壽四十六寛元
元年御骨を大原
法華堂側に藏む

皇統略記

存せり。

内國大概

明治六年五月官許
同七年五月刻成

著述

荻田長三

小田縣管下第八大区小三區井原村

寶文堂

大野木市兵衛版

大阪南大組第七區心齋橋筋堂下目七番地

